

グラスルーツからの日米関係強化に関する
政府タスクフォース(各地各様のアプローチ)
フォローアップ会合 議事要旨

1. 開催日時 : 令和元年6月5日(水)15時00分～15時30分
2. 開催場所 : 官邸3階南会議室
3. 概要

(1)本会合では、平成30年度の具体的な取組について報告が行われ、その後、各々の省庁・機関が計画している今年度の取組の方向性について議論が行われた。

(2)最後に、西村康稔内閣官房副長官より、以下の発言があった。

平成30年度には、関係省庁・機関を挙げて、前年を上回る350件以上の全米各地における事業を通じて、延べ110万人以上の幅広い米国人が、ビジネス・経済、文化、教育、人材開発など様々な側面から日本への理解を一層深めた。

2017年1月にトランプ大統領が就任して以降、日本企業は、米国への240億ドルの新たな投資を決定し、これにより約4万5千人の新しい雇用を生み出している。世界で最も米国の経済に貢献しているのが日本企業である。また、累積直接投資額でも日本は、第1位の英国に次いで、4,690億ドルで2位。日本企業は約86万人の雇用を生み、米国にとっての「良き企業市民」となっている。

米国の各地方、コミュニティへのグラスルーツの取組は、強い絆をさらに深める上で非常に有効なツール。今年度の重点として、米国地方に工場や拠点を持つ日本企業が、地元にとけ込むために実施する運動会やお祭りといった日本ならではの取組の支援、さらには、これまで取組が行き届いていなかった地域へのきめ細かなアプローチをしていくことが重要だと考える。引き続き、しっかりとした予算と体制を確保し、各省庁・機関より報告のあった今後の方向性に基づき、それぞれが相乗効果を生む形で、重層的な取組が展開されていくことが、日米の更なる関係強化につながっていくと期待する。